

議事録

日本学術会議 物理学委員会 IAU 分科会 (第 25 期第 3 回)

日時：2021 年 5 月 26 日 (水) 16:00～17:00 (議題 2 の一部のみ 13:10 に開催)

場所：オンライン会議 (新型コロナウイルス感染症対策下のため、
ZOOM ビデオ会議システムを使用。)

出席者：林、渡部、山崎、生田、相川、浅井、今田、梶田、佐々木、新永、須藤、住、田代、
深川、藤澤、山田

欠席：奥村、坂井、田近、千葉、常田、藤井、観山、村山

オブザーバー：山岡 均 (国立天文台)、大石雅寿 (国立天文台)、富田晃彦 (和歌山大学)、
岡 朋治 (宇電懇委員長)、野上大作 (光赤天連運営委員長)、
鶴 剛 (高宇連会長)、田島宏康 (CRC 実行委員長)、
当真賢二 (理論懇運営委員長)
(順不同、敬称略)

(Q) 質問 (A) 回答 (C) コメントをあらわす。

※プレスリリース解禁(14 時)の都合上、議題 2 の一部の報告・議論が先に行われた。

1. 各役職について (NOC、NAEC)

渡部委員長により、資料[IAU-1]に基づき説明があった。IAU の日本側担当に関わる役職の任期は 2021 年 8 月までとなる。渡部委員長の IAU 副会長職が 2024 年 7 月末までであることもあり、渡部委員長(National Representative)、国立天文台の山岡氏(National Outreach Coordinator)、和歌山大学の富田氏(National Astronomy Education Coordinator)に各担当を継続して頂く提案がなされ、承認された。

前回の分科会(2021 年 2 月 10 日開催)での審議を経て推薦された IAU 新会員(6 名)は全員承認され、すでに発表されている。同様に日本から 1 名推薦されていた IAU 名誉会員については、今回応募者多数であり、急遽 IAU 側で審査を行うことになったとともに、名誉会員規則の改定を検討中である。いずれも最終結果は、今年 8 月の総会で決定・報告される予定である。

2. APRIM2023 について

渡部委員長より、資料[IAU-1]に基づき説明があった。以前より日本(福島県郡山市)招致の活動を行ってきた。コンペティションの結果、開催地として日本が選ばれ、APRIM より IAU へ報告がなされた([資料・IAU-2])。分科会の冒頭で本件についての説明と委員の承認を経て、分科会開催日(2021 年 5 月 26 日)の 14 時に報道解禁となり、資料[IAU-3]の内容

でプレスリリースを行うことになった。日本天文学会、国立天文台、会津大学などで Web リリースを行うとともに、郡山市コンベンションビューローより地元メディアを中心に投げ込みが行われることになった。

3. その他

(1) Dark & Quiet Sky の状況について

資料[IAU-4]に基づき、大石氏から報告があった。国連宇宙空間平和利用委員会 (COPUOS) 科学技術小委員会で、IAU により取りまとめられた報告文書が審議された。日本・米国・カナダより COPUOS 会合の新議題として「暗く静かな夜空」を取り扱うことが提案されたが、中国・ロシアから検討のために時間が欲しい旨が示され議題設定に反対となり、新議題にはならなかった。COPUOS の継続検討としては認められた。IAU Dark and Quiet Sky Protection WG 活動は、2021 年 10 月にスペイン・カナリア諸島で WS 開催が予定され、大石氏は SOC として参加する予定である。

(2) 各種イベントの後援について

山岡氏より、各種イベントでの日本学術会議の後援名義申請について報告があった。日本天文学会ジュニアセッションでの後援名義は、申請・承認が日程的に間に合わず、断念した。七夕講演会では後援申請を 2 月上旬に行い、申請報告待ちである(分科会閉会后、3 月 26 日に後援名義許可を郵送で送っていることが判明)。後援名義の手続きには、時間がかかること、また、手続きにかかる作業に見合うほどには学術会議のアピールにつながっていないことなどから、次年度から後援申請を積極的に行わないことが提案された。これに対し、(C 林)日本学術会議と国民とかけ離れた組織になってしまったが、むしろだからこそ引き続き後援名義などは必要である。

(C 梶田)学術会議が学術のために活動していることは、あらゆる機会アピールすべき。

(C 須藤)名義使用などで時間がかかる、締め切りが早いなどがあるとすれば、それは学術会議側の問題でもある。

など、次年度以上も引き続き学術会議の後援名義申請を積極的に行うことを推奨するコメントが寄せられ、今後も同種の企画に関しては後援名義申請を行っていくこととなった。

(3) その他

(3-a) IAU シンポジウム 360 開催報告

IAU シンポジウム 360 「Astronomical Polarimetry — New Era of Multi-Wavelength Polarimetry」(2021 年 3 月 22~26 日開催)の開催報告が、シンポジウム SOC チェアを務めた新永委員から、資料[IAU-7]に基づいて行われた。本シンポジウムは、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、1 年延期された上で、オンライン(ただし全参加者のうち約 5%は現

地からの参加)方式で開催された。IAU から支援されるシンポジウム開催経費は、主に旅費を目的として配分されるが、今回はほとんどの参加者がオンラインとなったため、柔軟に活用し、特に若手表彰に充てることができた。オンラインに関わるトラブルもなく、世話人の工夫により盛況のうちに開催された。今後、詳細な開催報告が天文月報に掲載される予定である。

(3-b) NAEC 活動報告

OAE (Office of Astronomy for Education) の NAEC (National Astronomy Education Coordinator) コーディネーターである富田氏より、資料[IAU-5]に基づき、NAEC の活動報告がなされた。NAEC 日本チームは現在 5 名(富田晃彦氏・代表、前田昌志氏、松本直記氏、木村かおる氏、鴈野重之氏)の体制で活動を行っている。公開資料や活動報告は、IAU 天文教育コーディネーターWG の Web ページから随時紹介されている。IAU OAE が作成した NAEC の活動指針を和訳(資料[IAU-6])し、また Web ページから公開した。この他、IAU OAO(Office for Astronomy Outreach)のニュースレターの和訳とその発信も行っている。

OAE は、各国の NAEC を通じて世界の天文の学校カリキュラム資料を収集中であり、学習指導要領の天文教育関係個所の英語訳を行っている。NAEC では、OAE に比べて、より教育面に特化した活動を行い、文科省などとの折衝の機会も多いため、教育行政に知り合いのある方はぜひ教えていただきたい。

・天文教育コーディネーターWG のページ：<https://tenkyo.net/category/wg/iau/>

(3-c) EC からの報告

渡部委員長より、EC (Executive Committee)の状況について報告があった。コロナ禍のため、IAU シンポジウムが軒並み延期・バーチャル開催されつつあることを受けて、2022 年のシンポジウムの選考は、3 件程度にまで数が限られる見込みであることが報告された。

(以上)